

神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2014」（共同研究）

アートプロジェクトによるコミュニティ生成

—瀬戸内国際芸術祭 2013、沙弥島アートプロジェクトの実践による研究—

FORMING A COMMUNITY WITH ART PROJECTS

Setouchi Triennale 2013 Shamijima Art Project
by Kobe Design University

藤山 哲朗 デザイン学部環境・建築デザイン学科 教授
 藤本 修三 元・先端芸術学部クラフト・美術学科 教授
 戸矢崎 満雄 先端芸術学部クラフト・美術学科 教授
 さくま はな 先端芸術学部クラフト・美術学科 助教
 大畑 幸恵 先端芸術学部クラフト・美術学科 実習助手
 林 健太郎 元・先端芸術学部映像表現学科 実習助手

Tetsuro FUJIYAMA Department of Environment Design, School of Design, Professor
 Syuzo FUJIMOTO Department of Crafts & Arts, School of Progressive Arts, Former Professor
 Mitsuo TOYAZAKI Department of Crafts & Arts, School of Progressive Arts, Professor
 Hana SAKUMA Department of Crafts & Arts, School of Progressive Arts, Assistant Professor
 Yukie OOHATA Department of Crafts & Arts, School of Progressive Arts, Assistant
 Kentaro HAYASHI Department of Image Arts, School of Progressive Arts, Former Assistant

要旨

2013年、第2回「瀬戸内国際芸術祭 2013」が開催され、本学でも香川県坂出市沙弥島を会場とする「沙弥島アートプロジェクト by 神戸芸術工科大学」として参加した。このプロジェクトは2013年3月20日から4月21日を会期としたもので、全容は昨年（2012年）の紀要「芸術工学 2013」において報告したが、沙弥島を対象とした研究は継続して行われ、秋季には「沙弥島・あの感動を再び」と題して、独自の展覧会を行った。

プロジェクトは2012年度と13年度をまたいで実践されることになったが、2013年度共同研究としての位置づけとしては、春季開催中の会場運営、夏期芸術祭期間の他会場での開催プロジェクトとの比較考察、秋季展覧会の企画・実践を担っている。また、この2013年の成果をもとに沙弥島でのプロジェクトは2014年度も継続することが決定している。

Summary

‘Shamijima Art Project by Kobe Design University’ was held as a part of Setouchi Triennale 2013 Spring term (20th March to 21st April 2013). Complete works of the spring term project were reported on bulletin of last year ‘2013’. Since then the project was continued under the subvention of the University.

In the summer term of the Triennale, some member of research inspect the another area of Setouchi and consider the way of community formation by arts or architectural design.

In autumn, we planned a second exhibition and workshop titled ‘we remember the Shamijima’. The main subject of the show is retrospect of spring term project. But then two particular programs are executed. ‘Possible futures Sakaide’ show the fictional cityscape. These works are represented by high-school students of Sakaide city. At the workshop for children, salt and shell of Shami-beach is the matter.

At present, Shamijima Art Project progress to 2014’s new program.

研究の背景および目的

近年、アートイベントを媒介とした地域活性化プロジェクトが盛んである。中でも「越後妻有アートのトリエンナーレ」の大成功を受けて、2010年から始まった「瀬戸内国際芸術祭」はその1回目から西日本を代表する存在となった。その第2回「瀬戸内国際芸術祭2013」には、本学も香川県坂出市を会場に「沙弥島アートプロジェクト by 神戸芸術工科大学」として参加することになり、本共同研究のメンバーがそれぞれの作品展示を行った。

作品制作そのものは、2013年3月20日のオープニングに向けて2012年度中に完成したが、今回の芸術祭の目的は、単に作品展示で終わるのではなく、アートを介在させたコミュニケーションの創出にある。そのためには4月21日の会期終了までの1ヶ月の間、継続的に地域との共同活動、および広く国内外から訪れる来訪者との交流を積み重ねることが重要である。そこでこの共同研究の助成を得て、充実したアートイベントを実践することになった。これはアート作品だけではなく、そのためのデザインや建築再生も含んだ、正に芸術工学的対象だと考えている。さらに芸術祭そのものの意義を考察し、秋季には発展的なプログラムを再度開催し、長期的な地域連携の基盤を構築することを目的としている。

研究スケジュール

「瀬戸内国際芸術祭2013」は3季に分かれ開催され、それに応じ本研究も3つのフェーズから構成される。

1) 芸術祭春季期間

「沙弥島アートプロジェクト by 神戸芸術工科大学」の維持管理、会期中のイベント運営により経験されるコミュニケーション・インタラクションを調査・記録し、沙弥島アートプロジェクト自体の成果を省察し、芸術祭が坂出市地域社会に与えた意義について考察する。

2) 芸術祭夏季期間

最も多くのプロジェクトが行われる夏季では、他会場を調査することを目的とし、多様な地域交流の可能性を検討する。

3) 芸術祭秋季期間

継続的な地域との関連を維持するため、芸術祭と並行して坂出市独自のワークショップ等のプロジェクトを企画開催する。

研究成果

1) 芸術祭春季期間(3月20日～4月21日)

春季に開催された「沙弥島アートプロジェクト by 神戸芸術工科大学」については、昨年度紀要「芸術工学2013」および、2013年10月神戸芸術工科大学発行の書籍「三つの白(本学図書館にも収蔵)」にて詳細に述べられているので、簡潔に概要を説明する。本プロジェクトでは旧・沙弥小中学校の主会場に戸矢崎、さくま、大畑、林の4名がアート作品を展示、隣接するナカダ浜に藤本修三が立体作品を設置、西ノ浜に藤山が建築作品を制作した。ただし、この芸術祭の目的は作品を鑑賞すること自体ではなく、その場所を訪れることにより来訪者・作家・地域住民の間にコミュニケーションを誘発することにあった。ここではこの点に焦点を置いて論じたい。

結果として春季には沙弥島全体で77,693人、旧小中学校会場で28,195人の来訪者があった。その中では、坂出市あるいは香川在住者でも沙弥島地区を訪れた事の無かった者も相当数あったと理解している。さらに期間中開催されたトークイベント・ウォークイベントでは、地元の自治会や郷土史研究者の力を借り、多数の参加者があった。それもあり、一般的に、この場所は海水浴やスポーツを目的に訪れることが多いのだが、今回の芸術祭を通して景観的魅力や文化的歴史を知らしめることができた。

2) 芸術祭夏季期間(7月20日～9月1日)

この期間中には沙弥島では本学関連イベントは行わなかった。海水浴客のキャパシティ一杯になってしまうからである。その代り、藤山も設計した海の家は本来の用途として活用された。海の家も自治会が運営協力する施設である。

また、この期間に本研究メンバーは他会場の視察を行うことが出来た。その中には本学関係者のプロジェクトも含まれる。小豆島エリアでは環境・建築デザイン学科非常勤講師の、島田陽氏、赤代武志氏の手掛けた建築作品があり、

それぞれの方法で地域とコミュニケーションを形成して
いたことを知る事ができた。

3) 芸術祭秋季期間 (10月5日～11月4日)

10月26日～11月4日、「沙弥島・あの感動を再び we
remember the Shamijima」と題して、旧沙弥小中学校を
会場に展覧会を行った。これは瀬戸内国際芸術祭の一環と
して位置付けたが、沙弥島の正規プログラムは春季のため、
本学と坂出市の独自開催としたものである。そのため、春
のプロジェクトが全国からの来訪者を期待したものであ
ったのに対し、坂出市民を想定した内容となった。展覧会
は、作家が新たな作品を展示するというものではなく、記
録写真・映像展をメインに、沙弥島の存在を再認識させ今
後の定常的なアート活動を定着させる基盤をつくること
にあった。

展示内容は坂出市が担当したものとして、「瀬戸内国際
芸術祭 2013 沙弥島会場」と題して、本学以外の沙弥島設
置作品や会期中の様子を記録した展示が行われた。一方、
我々が企画したものは以下のものである。

3-1 「沙弥島アートプロジェクト by KDU」

我々の制作した作品を写真展示で振り返るもので、教室
の一つの壁全面を用いグラフィカルに構成された。これは
本研究者のうち、戸矢崎とさくまが担当した。



3-2 「パーソナル・メモリーズ 沙弥島と私」

これは大学院総合プロジェクトとして行われたもので、
地域の方々の沙弥島に対する想いをインタビューした映
像作品である。



3-3 「もう一つの都市 possible futures Sakaide」

市内の坂出高校、坂出商業高校の写真部と共同した写真
作品展である。実際の市内の風景写真をもとに、未来の坂
出市を空想してフォトタッチソフトを使用して架空の
都市を表現したものである。実現性は問わなかったため、
船が空を飛んだり、街並を動物園に変えたりと、自由な発
想でつくられた。また、制作の過程では高校生を本学に招
いて作業を行い、神戸の港・海を見学することで発想の幅
を広げることとなった。このプロジェクトは藤山が担当。



3-4 「塩で貝をつくろう！」

地域の子供たちを対象としたワークショップで、大畑が
担当した。貝殻を型枠に、塩を成型したオブジェをつくり、
それをまた海に帰した。海の価値を考えてもらうきっかけ
になれば、という意図である。



今後の研究について

今回の研究(制作)では、プロジェクト期間中でのコミ
ュニティ形成については一定の成果を出したと考えてい
る。ただしこれを定常化するためには、継続的なプロジェ
クトの運用が必須とも理解している。そのため2014年度
も新たなプロジェクトを準備している。実はここに掲載し
た図版は「沙弥島アートプロジェクト by 神戸芸術工科大
学」Facebookのページから再掲したものである。これま
での活動、今後の実践についてはこのFacebookも参考に
していただきたい。